

あぐり 最前線



土壌分析をしましょう！

—コスト低減に向けて—

J Aでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくしコスト低減に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度(200g)を採土し、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所・氏名・TELと、水稲・野菜(キャベツ、ハクサイ、等)・果樹(ミカン、カキ、等)など品目名を記入して、12月17日(金)までに各支店へご持参ください。分析結果は1月下旬頃にご連絡致します。

市場出荷休日カレンダー (野菜・果樹)

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1 元日
2	3	4	5	6	7	8
9	10 成人の日	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

Xは出荷できない日 〇は日曜・祝日等

※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、(収穫何日前まで使用可能か/通算使用可能回数)を表しています。農薬は農業安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。

例)表記が(14日/2回)の場合:収穫14日前までに2回使用可能

水稲



冬期は次年度の栽培における準備期間です

●土づくり

近年発生が多く問題となっている高温障害を防ぐ方法のうち、最も大切なのは「土づくり」です。

土づくりのポイント

ケイ酸・鉄を含む資材を施用しましょう。

・農力アップ(100kg/10a)

*毎年実施しています。定分析において、市内の水稲土壌で、水稲栽培に重要な微量成分である「ケイ酸」「鉄」の両方もしくは一方が不足している傾向にあります。土壌診断を実施し、効

率的な土づくりを行いましょ。

●耕起

越冬害虫であるヒメトビウンカ及びジャンボタニシは、次年度の栽培に悪影響を及ぼします。圃場密度を低下させるため、耕起を必ず行いましょう。

①ヒメトビウンカは綿葉枯病を発生させます。越冬する水田内の「ひこばえ」「稲ワラ」をすき込むことで密度を低下させることができます。



綿葉枯病



ヒメトビウンカ

②ジャンボタニシは、冬期土壌中に潜り越冬します。耕起すること、貝を物理的に粉砕し、また寒風にさらすことで凍死さ



ジャンボタニシ(成虫)

せることができます。



ジャンボタニシ(卵塊)

キャベツ



●定植

▽12月5日~1月20日 ※石井中早生

▽12月20日~1月30日 ※Y R春空

●病害虫防除(本田防除)

▽12月上旬 ※星岬SP・恋岬SP

・アクセル(フ) 100倍(前日/3回)

・トランスフォーム(フ) 200倍(前日/3回)

3回

・バリダシン(液) 5 800倍(7日/5回)

▽12月中旬 ※春のかほりSP①

▽12月下旬 ※春のかほりSP②

・フェニックス(顆) 200倍(前日/3回)

・コルト(顆) 400倍(前日/3回)

・キノンドー(フ) 1000倍(14日/3回)

●追肥

▽12月上旬

※恋岬SP・春のかほりSP①②③

・ニューパワーユーキ262(40kg/10a)

●収穫

▽11月1日~12月15日 ※星岬SP

▽12月10日~1月31日 ※恋岬SP

ハクサイ



●病害虫防除(本田防除)

▽12月上旬 ※12月穫り品種

・アクセル(フ) 100倍(前日/3回)

・トランスフォーム(フ) 200倍(3日/3回)

3回

・バリダシン(液) 5 500倍(3日/3回)

▽12月下旬

※年明け穫り品種・防寒ハクサイ

・アクセル(フ) 100倍(前日/3回)

・トランスフォーム(フ) 200倍(3日/3回)

3回

・ランマン(フ) 200倍(3日/4回)

●追肥(結球開始期)

・ニューパワーユーキ262(80kg/10a)

●石灰欠乏（アンコ）対策
乾燥が続くと発生しやすいので、適宜灌水とパフォームCa（50倍）を葉面散布してください。

ブロッコリー



●病害虫防除（本田防除）
▽12月中旬 ※グラントーム
・グレイシア（乳） 200倍（7日/2回）
・ウララDF 200倍（前日/2回）
・シグナムWDG 150倍（7日/2回）
◎ベト病
下葉の裏から発生し、暗緑色で小さな病斑が生じます。後に拡大して淡黄色となり、葉裏は白い霜状のカビが生えます。やがて上葉に広がり、花蕾にも発生することがあります。春と秋の気温が低いときや降雨が続くと発生が多くなります。風や雨によって伝染していくので、予防に努めてください。

●ランマン（フ） 200倍（3日/3回）
・シグナムWDG 150倍（7日/2回）
●追肥（花蕾発現期）
・ニューパワーユーキ262（80kg/10a）
4〜5月穫りのグラントームは、霜よけ対策としてパオパオ掛けを行ってください。

●収穫
▽11月15日〜12月15日 ※ピクセル
▽12月1日〜1月30日 ※アーサー

めたら間伐・縮伐の目安です。間隔は、樹と樹の間を、傘をさして歩ける程度です。間伐することで大玉・秀品の生産につながり、作業効率も上がります。

ミカン



●中晩生ミカンの収穫期を迎えました。
着色と酸を吟味しながら収穫しましょう。近年は、収穫時期の高温多湿で浮き皮の発生が増えています。収穫が遅れると浮き皮も助長されますので適期収穫を心掛けましょう。また、風雨等の影響によるキズ・スレで腐敗果が多くなりますので選果に注意してください。

マルチ栽培・フィガロン散布・着果過多等で樹勢が弱っている園では、収穫後樹勢を回復させるために、チッソ系（尿素）液肥500倍を2〜3回程度、葉面散布してください。なお、比較的暖かい日に行うことで、吸収力が高まります。中晩柑の収穫は年明けが中心です。10日以上雨がなく、土壌が乾燥状態の場合には灌水しましょう。過度の乾燥は、酸高になりますので注意してください。

ウメ



12月中旬頃になると花芽の休眠期に入ります。剪定作業は遅れないようにしましょう。

剪定は、主枝2〜3本として先端の枝は強く切り返し、垂主枝は1枝に2〜3本を残し先端は弱く切り返ししましょう。

ダイコン



収穫も本番を迎え始めます。収穫にあたっては適期を逃さず若穫り（L・2L中心）を心掛けてください。指定品種「福管」は、12月中旬以降の収穫でアントシアンが生じることがあります。肥料切れが症状を助長するので注意してください。

●病害虫防除
◎アブラムシ類
・ウララDF 200倍（前日/2回）
または
・モスピラン（顆） 200〜400倍（14日/1回）
◎白さび病（わかか症）
・ランマン（フ） 200倍（3日/3回）

新ショウガ



促成栽培では、定植の準備が始まっています。定植する40日前までに完熟した有機資材を施用し、深耕整地を行ってください。
●連作障害（根茎腐敗病など）の発生が見られる圃場では、クロピク80（2〜3ml/穴）、ソイリン（20〜30ℓ/10a）、デイ・トラベックス油剤（20〜40ℓ/10a）などで必ず土壤消毒するとともに、バリアスター（難透過性フィルム）を使用して効果を高めてください。なお、低温時期の処理になるため、ガス抜きを十分行ってください。
なお、右記の土壤消毒剤は除草効果がないので、右記の除草剤は除草効果が

モモ



●落葉も終わり、今月は整枝・剪定作業です。
剪定は大枝から始め、不必要な徒長枝をはずし、主枝の先端は切り返し剪定します。側枝は先端に近いほど小さく、主幹に近いほど大きくなります。立枝・平行枝・内向枝など、樹冠内へ日光が入るのを妨げたり、樹形を乱す枝を剪定してください。

結果、枝が込み合わないよう間引きします。徒長枝や長果枝が多いときは間引き剪定を中心に行い、樹勢を落ち着かせます。短果枝が多くなったり、側枝が下垂してきたときは、樹勢を回復させるために、切り返し剪定を中心に行ってください。
切り口の大きな剪定痕には、乾燥や病害虫侵入による枯れ込みを防ぐため癒合剤（トップジンMペースト）を塗布します。切除した枯れ枝は病原菌やカイガラムシの越冬源となるので、園外に処分しましょう。

弱いため、雑草防除としてトレファンサイド粒剤2.5（6kg/10a）を植え付け直後に施用しましょう。

●元肥
●省力型
・スーパードロンク413（140日）（22kg/10a）
・ケイ酸加里（60kg/10a）
●標準型
・わかやまプレミアム配合（24kg/10a）
・ケイ酸加里（60kg/10a）
使用する種イモは、小さくてもしまりが良く、病害虫に侵されていないものを100〜150gの大きさに使用してください。
※収穫までに180日を超えないように定植してください。

シシトウ



11月上旬から加温栽培の育苗がスタートし、順調に生育していれば第2回目の移植作業が始まります。
2回目の移植は、1回目の移植後22〜30日、本葉4〜5枚程度の頃に行います。労力や苗床に余裕が無ければ鉢に移植し、苗が大きくなるとともに、鉢の間隔を広げてください。苗床へ移植する場合は、移植間隔は12〜15cmです。
病害虫については、早期発見・早期防除を心掛けてください。

ピーマン



育苗や植え付け準備の時期が近づいて

います。定植後の活着とその後の生育が良好な、株張りのよい苗を生産することが重要です。

●育苗
苗の鉢上げ後の温度は、日中は27〜28℃で管理しましょう。夜温は移植時で16〜18℃を目標とし、その後は徐々に下げ、最終14℃前後にすることで、植え傷みが少ない苗に仕上がります。多照を好むので、育苗中はできるだけ日光に当てるように管理しましょう。

カキ



●圃場の準備
ピーマンは、土壌の排水が良く、保水力のあるものが適しています。定植前に完熟堆肥を施用し、深耕するように心がけましょう。定植の2〜3週間前に元肥を前面に施用するようにしてください。
●今月の作業は落葉処理です。
収穫も終わり、カキ園の整理の時期となりました。今年、落葉病・うどんこ病が発生した園では、特に落葉の処理が重要です。落葉を焼却するか、園内に埋めてください。
有機物の補給を考えると、できるだけ園内に埋めましょう。有機物の量が少ないと、土壌が硬くなり、根の分布している層へ水・空気・肥料が届かなくなり、良い園地をつくるには、有機物を投入するのが最も効果的です。
葉の残っている時期に、間伐、縮伐を行います。隣の樹と枝先が交差し始

都市農業振興のための講演会

～都市農業の可能性を探る～

1. 「都市農業振興三者協定について」
和歌山大学観光学部 藤田武弘教授
2. 基調講演「都市農業経営の持続的展開」
全国農業体験協会 白石好孝理事
3. 「和歌山市農業振興基本計画について」
和歌山市農林水産課



日時 1月12日(水) 9:30~11:30
場所 JAわかやま本店大ホール (和歌山市栗栖642)
定員 50人 (要事前申込：先着順)
参加費 無料
お問い合わせは 営農生活部 ☎473-9402まで